

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



うれしの

2014.1

第37号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



「H26. 1月より、佐賀県ドクターヘリ運行開始」

患者さんの権利

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要の情報得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 継続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質 (QOL) や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

CONTENTS

② 多数傷病者受入訓練を終えて

③ 新病院建設だより・・・シリーズ No.2

④ 地域医療連携だより 麻酔科の現況

⑤ 病院間における医療安全相互チェックの実施

⑦ 附属看護学校開学60周年式典・祝賀会を終えて

⑧ 平成25年度 感染管理エキスパートナース研修を開催して

⑩ 外来診療担当医表

⑩ 編集後記

基本理念 「ひとり一人を大切に」



多数傷病者受入訓練を終えて

救急科医長 山住和之

東日本大震災から約2年半が経過しましたが、いまだに復興の途上にあります。最近では台風などの大雨災害が色々なところで起こっています。10年に一度、100年に一度といわれるような事が当たり前のようになっているようにも感じます。災害はいつ起きるか、どこで起きるかわかりません。災害時は一度に多くの傷病者が病院に詰めかけるため人や物が不足し、いつもと同じ救急体制では対応困難となります。病院としてはそのような状況の中で、出来るだけ多くの傷病者を助ける治療を展開する必要があります。

当院は本年度より佐賀県の地域災害拠点病院に指定されました。そのため災害マニュアルの見直しを行い、これに基づいて災害医療の勉強会を開催し、6/28 机上訓練、7/25 多数傷病者受入訓練を行いました。今回は受入訓練の紹介をしたいと思います。

2013/7/25 14時ごろに長崎自動車道上にて大型バス（35人乗り）の単独横転事故が発生したとの想定で訓練を行いました。情報を受けて災害モードでの対応が決定され、大会議室に本部、玄関前にトリアージポスト、救急外来に赤（重症）エリア、内科・外科外来廊下に黄（中等症）エリア、ヘリポート下に緑（軽症）エリア、リハビリ室に黒エリアを設置しました。



その後、当院看護学校学生扮する傷病者20名が順次運ばれて来ましたが、トリアージ、傷病者の搬送、各エリアと本部との連絡、入院・手術調整、家族対応などのシミュレーションは、ほぼマニュアルに従って対応できていたと思われます。当院では初めての訓練でしたが、勉強会や机上訓練の効果は十分に出た結果でした。もちろん、色々な課題も出てきています。今後は災害対応部会を設立し、問題点の再検討やマニュアルの見直し、トリアージや机上訓練などの勉強会実施などを行い、更に病院としての対応機能向上を目指していきたいと思っています。協力頂きました多くの病院職員の皆さま、そして看護学生の皆さまに感謝いたします。本当にありがとうございました。

今回は院内での訓練でしたが、災害時には一つの医療機関のみで全てが解決できるわけではありません。更に今後は地域医療の中でも災害拠点病院としての責務を果たせるよう、周囲の行政、医療機関、消防との連携、合同訓練の実施も目指していきたいと考えています。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



新病院建設だより

シリーズ No.2

前回、建替整備スケジュールについて記した際に、機構本部承認予定を9月末としておりましたが、本日（12月20日）現在、まだ承認を得ておりません。

現在も、引き続き建替整備にかかる資金計画・償還シミュレーションにより、今後10年～30年間の資金繰りを考慮しながら、機構本部の審査スケジュールに対応しているところです。みなさんあと少しです。吉報をお待ちください。

今回は、整備基本方針の内容についてポイントを少し記したいと思います。

◆整備基本方針

- 1) 高度急性期医療および質の高い専門医療を実践する
- 2) 地域連携の質を緊密な連携により深化させる
- 3) 災害拠点病院として被災地の医療を支える
- 4) 臨床研究を推進し医療のレベルの向上を図る
- 5) 将来を担う医療人の育成に全力を挙げる

◆整備のポイント

- 敷地面積 115,000㎡ ⇒ 60,000㎡～62,000㎡
- 建物本体述べ面積 38,000㎡～40,000㎡ SRC 8階建（免震構造）
- 標榜診療科
21診療科 ⇒ 29診療科
- 病棟数・病床数
9ヶ病棟 ⇒ 10ヶ病棟（救命救急センター病棟1ヶ増）424床（うち感染4床）
- 救命救急センター
18床（救命救急10床、ICU 4床、CCU 4床）
⇒ 24床（救命救急12床、ICU 6床、CCU 6床）
- NICU 6床を新設します。
- ヘリポートは、屋上に常設します。
- 駐車場スペースは、現在の700台分を1200台（2階式含む）分に拡張します。
- 全25部門の部門別計画書（提案、提唱事項）を重要検討事項とします。

◆部門配置

病院本体は、外来診療部門、病棟部門、管理部門、薬剤部門、放射線科部門、栄養・給食部門、エネルギー機械室部門などが考えられますが、低層部、中層部、高層部から構成されます。各部門の具体的な配置は、今後、基本設計により詳細に詰めていくことになります。

**今回の
ひとこと**

ひとり一人の職員が“わたしは、コンシェルジュ”の気概で……。

新病院建設整備推進室スタッフ一同

地域医療連携だより

麻酔科の現況



麻酔科部長 香月 亮

当院の麻酔科では外科系診療科の手術麻酔管理だけではなく、ペインクリニック・緩和ケアでの疼痛管理、救急蘇生・集中治療での呼吸・循環管理、他職種への教育など、幅広い分野での業務を行っております。スタッフは香月亮（部長）、石川亜佐子、四宮宗一郎、塚本絵里、山田康貴、中尾美咲（レジデント）の6名で日夜奮闘しております。

診療内容

5年間の推移表（手術・麻酔科管理・緊急手術・ペイン新患・緩和介入の件数）

	手術症例数	麻酔科管理症例数	緊急手術症例数	ペイン新患数	緩和介入患者数
2008年	2895	2260	769	81	33
2009年	3066	2279	795	63	60
2010年	2809	2217	777	93	91
2011年	2800	2222	746	106	78
2012年	3012	2321	848	146	108

- ・手術麻酔管理では「24時間どんな状態の患者さんでも断らない」をモットーに決してあきらめない覚悟で対応しております。特に緊急手術の依頼を迅速に対応し、救急来院から手術開始までの時間を短縮することで患者の予後改善に寄与していると思っております。心臓血管外科・脳神経外科・整形外科の先生方からは「日本一早く対応してくれる麻酔科」と評価していただき、各種学会でも報告しております。
- ・ペインクリニックは石川が担当し、鎮痛薬の処方や神経ブロックといった治療に加え、漢方薬や鍼を用いた東洋医学療法も行っております。緩和ケアは石川と四宮が担当し、がん性疼痛看護認定看護師・臨床心理士などの専門職を交えた緩和ケアチームとして、がん患者さんの体や心の痛みやつらさを緩和しております。ペイン・緩和とも月曜・火曜・金曜の午前中に開設している外来だけではなく入院にも対応しており、更に佐賀大学や好生館などと連携することで必要に応じて相互紹介をしております。神経痛、腰下肢痛、術後痛、がん疼痛など痛みでお困りの患者様がおられましたら、お気軽にご相談ください。
- ・救急蘇生と集中治療の管理は2007年の救急センターの開設に合わせて救急科が中心を担っていますが、夜間や休日といった時間外の管理を麻酔科が担当しております。手術麻酔で培った呼吸・循環管理に加えて鎮痛・鎮静を適切に行うことでより高度な蘇生・集中治療を施すことができるようにしております。
- ・この数年は教育にも力を入れております。研修医やレジデントに対する麻酔業務の教育だけではなく、佐賀大学学生に対する病院実習、病院スタッフに対するBLS研修、新人看護師に対する蘇生・気管

挿管介助実習、地域の救急救命士に対する気管挿管・薬剤投与実習など、他職種に対しての教育・手術室実習も常に受け入れております。

最後に

当院に赴任して 10 年経とうとしております。その間、手術症例数は 2000 例から 3000 例の 1.5 倍に、麻酔科管理症例数も 1200 例から 2400 例の 2 倍に、緊急手術は 300 例から 850 例の約 3 倍になりました。救急蘇生や集中治療を当時統括診療部長であった岡副院長から任され、優秀な後輩たちからの要望でペインクリニックや緩和ケア部門を立ち上げました。麻酔科のスタッフも当時は 3 名でしたが徐々に増員していただき、現在は 6 名体制になっております。

地域の先生方と直接接する機会の少ない麻酔科ですが、手術・ペイン・緩和・救急の領域で地域の患者さんたちを縁の下から「基礎」として支える診療科でありたいと常々考えております。

私事ではありますが、昨年 1 月に自宅を嬉野町内に新築しました。身も心も地域に根差した診療を続けていこうと今まで以上に強く思っております。

今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



病院間における
医療安全相互チェックの実施

医療安全管理係長 柴田理恵子

医療安全相互チェック（以下「相互チェック」という。）は、国立病院機構の各病院における医療安全対策の現状について病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ることを目的とし平成 23 年より試行も含め開始されました。今年度当院は、長崎医療センター、長崎川棚医療センターの 3 病院で、チェックを受ける病院、チェックをする病院、オブザーバー病院を各病院が担当し相互にチェックを行いました。

実施日	チェック対象病院	チェック実施病院	オブザーバー病院
H25 年 9 月 13 日	嬉野医療センター	川棚医療センター	長崎医療センター
H25 年 9 月 20 日	川棚医療センター	長崎医療センター	嬉野医療センター
H25 年 10 月 4 日	長崎医療センター	嬉野医療センター	川棚医療センター

相互チェックの方法

1. 医療安全相互チェック項目を自己評価する

チェック項目

(1) チェックシート

- ① 医療安全管理体制の整備 4 項目
- ② 医療安全管理のための具体的方策の推進 5 項目

- ③医療事故発生時の具体的な対応 11 項目
 - ④医療事故の評価と医療安全対策への反映 6 項目
 - ⑤ケア・プロセスに着目した医療安全管理体制について 106 項目
 - ⑥施設内環境について 4 項目
 - (2) 規程及びマニュアル一覧 36 項目
 - (3) 委員会設置一覧 7 項目
 - (4) 研修会開催一覧 10 項目
2. 相互チェックの実施
- 病棟、コメディカル部門を訪問し、チェック項目を基に質問・意見交換しながらチェックしていく。
3. チェック実施病院は、実施後1ヶ月以内に「提言報告書」を作成しチェック対象病院に送る。提言報告書には優れている点と改善すべき点を記載する。
4. チェック対象病院は、「提言報告書」に基づき、3ヶ月以内に「改善報告書」を作成しチェック実施病院に送る。

当院は、9月13日に長崎川棚医療センターによるチェックを受けました。提言報告書では、①輸血後感染症検査の実施率が低いため、医師への啓蒙も含め対策が必要である。②注射薬の払い出しについて、用法別払い出しの検討が必要である。③身体抑制のカンファレンスが、看護師で実施されていたが、医師を含め多職種で検討していくことが望ましい。等7項目の改善点が報告されました。それらに対し改善策を立て、平成26年1月8日に「改善報告書」として長崎川棚医センターへ報告しました。

相互チェックを受けるにあたり、チェック項目を自己評価していくなかで当院の医療安全管理について、できていること不足していることを確認することができました。また、他病院に訪問し実際の場所で意見交換をしたことで、医療安全対策について参考にさせてもらうことが多くあり、さらに当院の医療安全体制について振り返り見直す機会になりました。

相互チェックを受けるに当たり、チェックシートの自己評価、チェックを受けていただいた部



署については訪問時の対応、他病院へ訪問しチェックしていただいた皆さんありがとうございました。今回一緒に相互チェックしていただいた長崎医療センター、長崎川棚医療センターの関係者の方々に感謝すると共に、今後とも相互に医療安全に関する情報交換を継続し、より安全な医療の提供を目指していきたいと考えています。



附属看護学校開学60周年式典・ 祝賀会を終えて

教育主事 今村嘉子

10月5日に嬉野医療センター附属看護学校の開学60周年記念式典を嬉野市公会堂において開催しました。記念式典には、嬉野市副市長、杵藤保健福祉事務所長、佐賀県看護協会長、国立病院機構の院長、看護部長他、多くの来賓ならびに同窓生にご出席いただきました。

河部学校長の式辞のあと、これまで20年以上、10年以上の長きにわたり本校の講師として講義を担当して戴いた先生方に感謝状を贈呈しました。



続いて、ご来賓の嬉野市長、杵藤保健福祉事務所長、国立病院機構本部理事長より祝辞をいただきました。来賓の挨拶では嬉野医療センター附属看護学校がこれまで果たしてきた役割を慰労し、今後の看護師育成のための励ましの言葉を戴きました。久部看護担当理事が桐野理事長の式辞を預かっておみえになりました。ご挨拶の最後には、久部理事より参加していた在校生に対して看護職を目指すことのすばらしさと激励の言葉が添えられました。

式典の最後に職員、同窓生、在校生が一同に校歌斉唱を行い、会場に校歌が響きわたりました。

式典に続いて行われた記念講演では、長崎医療センター名誉院長であり、かつては本校の脳神経外科の非常勤講師も務められた現長崎県病院企業団企業長米倉正大先生による『医療人の感性を考える』というテーマの講演でした。感性を磨くためには、学校などで培う理論的記憶だけでなく、経験的に培われる周辺記憶が大切であること、現代は多くの知識を吸収するための時間を費やすため、昔は知らず知らずに吸収していた周辺記憶が得難くなっていることなど、脳外科医の先生ならではのとても興味深い講演でした。

厳かな式典に続き、記念祝賀会は会場をホテル桜に移して行いました。ご来賓を始め、歴代の学校職員、同窓生の方々など、約200名が一同に会しました。古賀満明前学校長の乾杯で会が始まり、村中九州ブロック担当理事、武藤九州地区国立看護教育協議会会長、伊藤美智子同窓会長よりご挨拶をいただきました。その後は、おいしい食事をいただきながら同窓生の各回生のテーブルごとに懐かしい思い出話に花が咲き、高らかな笑い声が響いていました。祝宴では祝舞や地元バンドによる歌と演奏が披露され会を盛り上げていただきました。和やかな雰囲気包まれてあっという間に予定時間が過ぎ、岡副学校長の万歳三唱で閉会いたしました。

このように開学60周年記念行事を無事に終えることができたのも、同窓会、病院職員、その他多くの方々のご支援のおかげと感謝しております。また、お迎えする方々が参加してよかったと喜んでいただける会にしようと努力してくれた学校教職員にも感謝します。今年の嬉看祭のテ-

マとして学生が掲げた「つなぐ～60年間の伝統と未来」のように、これまで築かれた本看護学校の歴史と伝統を大切にするとともに新たな未来への歴史を築いていきたいと思います。



教員と教え子



平成25年度

感染管理認定看護師 岩谷佳代子

感染管理エキスパートナース研修を開催して

平成25年10月1日～4日まで平成25年度感染管理エキスパートナース研修が開催されました。国立病院機構九州ブロック主催の本研修が当院で開催されるようになり早いもので4回目となりました。平成21年度より九州ブロック初の研修を当院で開催したいと古賀前院長に伝えられ、研修内容の構想を練り始めたのはその一年以上も前のことでした。当院で開催することの意味を研修生や職員に伝えられるのか、責任の重さに押しつぶされそうになりながら大きなプロジェクトに向けて準備したことを覚えています。

毎年、本研修の募集人数を超える受講希望がありますが、より充実した研修を受けていただけるよう今年度も各施設1名ずつとさせていただき九州各県から21名の受講生をお迎えしました。受講生の中には感染管理認定看護師を目指す方々も多くなり、施設の課題解決と共に自身のキャリアアップのための一歩としてこの研修が期待されているものと実感しています。研修は佐賀大学医学部附属病院感染制御部や長崎大学病院感染制御部をはじめ、国立病院機構内の感染管理認定看護師から専門性の高い講義やエビデンスを踏まえた演習がありました。手袋やエプロン着脱演習においては、適切に外せたと思っていても、予め手袋にす

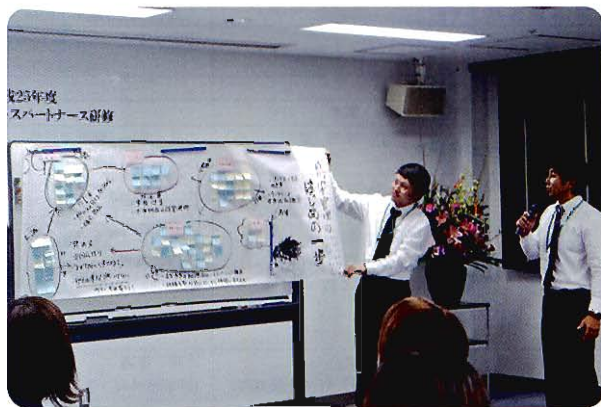


り込んでいた蛍光塗料が自分の衣服や手に付着しており、見えない“バイキン”がどうやって広がっていくのかを改めて学ぶ機会となったようでした。研修内ではグループワークがいくつかありますが、研修初日は初回のグループワークといっても過言ではない、懇親会があります。一緒にお鍋を食べながらお互いの緊張をほぐしあい、さらには嬉野の町（と嬉野医療センタースタッフ）

のあたたかさを知っていただく機会となったのではないのでしょうか。

受講生の皆様は各施設で感染対策に携わりながら、スタッフ教育や実践に対する悩みを抱え、その解決方法の糸口をこの研修に求めてこられます。各施設の特徴はそれぞれですが悩みや不安は共通するものが多く、グループワークを通じた意見交換によって施設に持ち帰る情報やヒントを得ることができているようでした。この研修への参加が何か一つでも不安を自信に変換できるきっかけになれば幸いです。

感染対策の過程や結果は目に見えて伝えづらいものですが、患者様や医療従事者を守りたいという気持ちがあれば自然な行動として実践できるものだと考えます。そういった気持ちが多くのスタッフに感染して（広がって）もらえることを信じています。当院も研修開催施設として共に学ぶ姿勢を忘れずに、一人ひとりを大切にした感染対策の実践を目指していきたいと思います。研修開催に当たりご尽力いただいた講師の先生方をはじめ、院内職員の皆様に感謝申し上げます。



嬉野医療センター・外来診療担当医表

区 分	月	火	水	木	金
呼 吸 器 内 科	午前 副島 佳文・佐々木英祐	中野 浩文	副島 佳文・由良 博一	佐々木 英祐	中野 浩文・由良 博一
消 化 器 内 科	午前 北山 素 白石 良介(消化管) 磯田 広史(肝臓)	綱田 誠司(消化管) 有尾 啓介(肝臓) 森崎 智仁(消化管)	大石 敬之(消化管) 北山 素 森崎 智仁(肝臓)	綱田 誠司(消化管) 白石 良介(消化管) 有尾 啓介(肝臓)	大石 敬之(消化管) 磯田 広史(肝臓)
循 環 器 内 科	午前 逸見 朋子 山元 芙美	室屋 隆浩 三輪 高士	山元 芙美	室屋隆浩(ペースメーカー) 山元 芙美(第1・3) 三輪 高士(第2・4)	三輪 高士
心 臓 血 管 外 科	午前	力武 一久・池田 和幸	力武 一久		力武 一久・池田 和幸
糖 尿 病 内 科	午前	田中 史子	安西 慶三(糖尿病のみ) (第2,3,4,5週)	田中 史子	
リウマチ科	午前		荒武 弘一朗	荒武 弘一朗	田中 史子
神 経 内 科	午前 長岡 篤志		満田 貴光		満田 貴光
腎 臓 内 科	午前 野中 康徳(整形で診察)	力武 修一(整形で診察) 斧沢 幸司(整形で診察)		力武 修一(整形で診察) 斧沢 幸司(整形で診察)	野中 康徳(整形で診察)
血 液 内 科	午前				安藤 寿彦
小 児 科	午前 小野 晋康 佐藤 忠司 小野 晋康 (診察14時～16時)	西川 小百合 乳児検診(完全予約制) (診察14時～16時)	佐藤 忠司 循環器外来 第1・3水曜 (診察13時～16時)	一ノ瀬 文男 小児腎臓外来 第2木曜 内分泌外来 第3木曜 久野 達夫(第3木曜) 小児アレルギー第4木曜 (診察14時～16時)	古賀 大介 大串 崇彦
外 科	午前 岡 忠之 (呼吸器外科・乳腺外科) 午後 岡忠之・近藤正道(乳腺外来) (診察13時半～15時)	近藤 正道 (呼吸器外科・乳腺外科)	荒木政人(消化器外科)	柴崎 信一(消化器外科) 佐藤義子(一般外科・乳腺外科)	郡家 聖史(一般外科)
整 形 外 科	午前 川口 耕平・久芳 昭一 古畑 友基	小河 賢司・杉山健太郎 井上 拓馬	古市 格・川口 耕平 杉山健太郎	小河 賢司・久芳 昭一	古市 格・井上 拓馬 古畑 友基
脳 神 経 外 科	午前 前田 善久	宮園 正之		宮園 正之	前田 善久
皮 膚 科	午前 東 江里夏	東 江里夏	東 江里夏	東 江里夏	東 江里夏
泌 尿 器 科	午前 谷口 啓輔(再来) 林田 靖(新患)	谷口 啓輔(新患) 林田 靖(再来) 計慶弘信(第1,3,5火曜日)		谷口 啓輔(新患) 林田 靖(再来)	谷口 啓輔(再来) 林田 靖(新患)
婦 人 科	午前 村上 直子	杉田 豊隆		一瀬 俊介	藤原恵美子
産 科	午前 藤原恵美子 午後 母乳外来(13時半～15時半) (完全予約制)	一瀬 俊介 助産外来(13時半～15時半) (完全予約制)	助産外来(9時～15時半) (完全予約制)	杉田 豊隆 母乳外来(13時半～15時半) (完全予約制)	村上 直子 助産外来(13時半～15時半) (完全予約制)
眼 科	午前 佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)		佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)	佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)	佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)
耳 鼻 咽 喉 科	午前 桂 資泰(再来) 前田耕太郎(新患)	桂 資泰(新患) 前田耕太郎(再来)		桂 資泰(新患) 前田耕太郎(再来)	桂 資泰(再来) 前田耕太郎(新患)
放 射 線 科	午前 福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一 午後 福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一	福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一	福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一	福井健一郎・牧野謙二・福田雅敏 平川浩一・森本綾美	福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一
泌尿科ペインクリニック	午前 香月 亮・石川亜佐子	香月 亮・石川亜佐子		福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一	福井健一郎・牧野 謙二 福田 雅敏・平川 浩一
救急科(8:30～17:15)	藤原 紳祐・山住 和之	藤原 紳祐・山住 和之	藤原 紳祐・山住 和之	藤原 紳祐・山住 和之	藤原 紳祐・山住 和之

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようお願い致します。
(当院の受付時間は午前8時30分～午前11時00分迄です。)

特殊診療のご案内

内 科 系	第2・第4木曜日はペースメーカー外来を行っています。 毎週木曜日の午後(13時～14時)は禁煙外来(保険診療外)を行っています。(予約受付14時～16時)★予約制 毎週月・金曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付14時～16時) 毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) ●第1・3水曜日の午後は循環器外来(受付13時～16時)★予約制 毎月第3木曜日の午後は内分泌外来(受付13時～16時まで) 毎月第4木曜日の午後は小児アレルギー外来(受付14時～17時まで)★完全予約制 毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付時間13時～16時)★予約制 毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間12時半～13時半)
小 児 科	
外 科	ご紹介は整形外来宛でお願いします。 救急患者については救急室にて対応しております。
整 形 外 科	
泌 尿 器 科	毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。
産 婦 人 科	毎週月・木曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間13時30分～15時30分) 毎週水曜日の午後は完全予約のもと一般外来を行っています。
耳 鼻 科	毎月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。
麻 酔 科	ご紹介は月曜日をお願いします。救急の場合はこの限りではありません。

2014. 1. 1

編集後記

“頭の固い人、柔らかい人”

今も昔も身の回りの99.9%は仮設の世界。わたしたちの常識は仮設に過ぎない。昨今の、近隣諸国との争いの一役を担っている新聞報道やTVなどを見聞きして、わざわざ報道内容を仮設としてとらえ、その真偽を一瞬でも疑っている人がどれくらいいるだろうか。

いつの時代も、世界中どここの国にも、「頭の固い人」がウヨウヨいる。まずは、われわれの常識が仮説にすぎないということを実感し、常に常識を疑う癖を身につけ、頭の中にある仮設の群れを一瞬でも意識できるようになれば、「頭の柔らかい人」が増え、争いもだんだんと減少するのではないだろうか。